

# 一般質問

9月1日、2日の本会議で、21人の議員が、市政全般について、一般質問を行いました。要旨は次のとおりです。

## 「買い物弱者」のための 一歩進んだ支援策を



日本共産党 栗原 健治 議員

議員 地域の商店街の衰退に伴い、食料品等の日常の買い物に困難な「買い物弱者」の問題が高齢者を中心に深刻化している。①解決に向けた基本的な考え方を伺う②実態調査が必要だ。

市長 ①関係機関と連携して、商店会の取り組みを周知するなど支援を行いたい②高齢者の生活実態調査等で状況を把握している。

議員 地域の商店街は、コミュニティの核として地域の生活を支える役割を担っている。活性化を検討せよ。

第一副市長 既存の商店街の存続が重要だと考え、多角的な支援策に取り組み。

議員 商店街による宅配サービスの充実を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

ポネーターの活用を、市がコー

社会環境等に沿った対応が必要であるため、相談を受けた場合には専門医療機関等の窓口を紹介している。

議員 図書館本館には音訳者が視覚障がい者等へ朗読を行う「対面朗読サービス」

がある。適切な予算措置を行い、利用回数の希望などにきちんと応えるべきだ。

生涯学習担当部長 できる限り利用者の期待に応えられるように努力したい。

議員 高齢者が元気に活動できるように、老人性難聴に

対する支援が必要だ。公共施設での磁気ループ（磁気の音声信号により明瞭に音を聞き取れる補聴システム）の設置状況を聞く。

健康福祉部調整担当部長 現状では、南浦小中学校の「きこえことばの教室」に設置しているのみだ。

議員 小中学校の全教室にクロー設置を拡充せよ。

教育部長 設置経費等を勘案し、検討していきたい。

図書館本館の対面朗読室

困っている市民を救え



日本共産党 岩田 康男 議員

議員 100歳以上の高齢者の所在不明が社会問題だ。事態を引き起こした「家族の絆の崩壊」や「地域の見守り力の低下」は、貧困問題や社会保障の後退が要因と考えられる。様々な制度の改善が市民と市役所を引き離した。

三鷹市における所在確認について今後の課題を伺う。

市長 地域ケア推進事業の全体的な展開や福祉、住民登録及び医療部門等の連携の充実が必要だと考える。

議員 65歳または75歳以上の高齢者の所在確認も必要だ。医療・介護保険事業で不明者等の名寄せ作業を行い、訪問調査できないか。

第二副市長 関係部門と連携を深め、手法を検討する

よう所管部署に指示した。

議員 三鷹市では、民生委員が1人当たり89世帯（配置基準170〜300世帯）を担当している。人員確保が必要だ。自宅での相談活動には困難がある。熱意のある人が仕事できるような相談活動の場所を提供できないか。

市長 実態を把握し、個人情報保護の視点も踏まえて慎重に検討していきたい。

議員 全世帯の把握に向けて、民生委員に、①高齢者名簿を提供できないか②訪問調査を依頼してはどうか。

市長 ①名簿利用の基準などの課題を整理して検討したい②慎重に検討したい。

〈その他の質問〉市民センター周辺地区整備について

## 市民の命を守り はぐくむ施策の充実を



野村 羊子 議員

にし色のつばさ

議員 米飯給食は伝統的な食文化の継承であるとともに、食習慣の形成にも役立つ。学校において、完全米飯給食を実施できないか。

教育部長 週3日以上は実施しており、今後も米飯給食を中心にバランスのとれた献立を提供していく。

議員 学校給食で有機農業、減農薬農法で栽培した野菜の提供を増やすため、市内農家の協力を求めよ。

教育部長 市内農家の協力を得てできる限り減農薬農法の野菜を提供している。

議員 保育園給食においても市内産野菜の活用は少ない。近隣農家と契約をしていくと聞けが、さらなる努力が必要だ。所見を伺う。

子ども政策部長 学校給食に比べ全体量が少ない利点を生かし、市内産野菜を積極的に取り入れたい。

議員 自殺対策は生きる支援だ。命を守るまちづくりについて市の所見を伺う。

市長 市全体で人の命を守り、尊厳を大切にす姿勢を持ち、取り組んでいく。

議員 行政機関窓口では自殺のサインに気づく「ゲートキーパー」の役割が重要だ。各種相談窓口との連携等、自殺予防対策を聞く。

市長 市民の抱える問題を的確に捉え、市役所内の関連する部署の連携を強化した体制づくりを進める。

## 市民が待望する施策を 一刻も早く実現せよ



嶋崎 英治 議員

にし色のつばさ

議員 100歳以上の高齢者の所在不明が社会問題化している。本市での高齢者の安否確認の取り組みを聞く。

市長 敬老金贈呈事業や民生委員等の見守り活動を通じて、安否確認を行っている。

議員 安否確認のため、新聞、電気、ガス、水道、郵便等の事業者にも情報提供の協力を求めているかどうか。

市民部長 様々な機会を捉えて情報収集を図りたい。

議員 コミュニティバスの新川・中原ルートについて運行開始の見通しを示せ。

活用を検討していきたい。議員 公的助成を受けていない認可外保育施設を利用する保護者に対して、助成の実施を検討してほしい。

子ども政策部長 指摘の件は、より幅広い観点の中で総合的な判断が必要だ。

## 日本国財政破綻の前に 巨額の建設事業を見直せ



半田 伸明 議員

にし色のつばさ

議員 2011年後半まで円高不況が続くものの、その後、国債暴落に起因する悪い円安に悩まされ、日本は財政破綻に陥るのではないかと危惧している。現状はデフレ不況である。デフレとは、物価が持続的に下落していく経済現象だが、その反面、貨幣価値の上昇も意味する。つまり一番大切なのは現金であり、デフレの時期には新規の投資は控えるべきである。多摩青果市場跡地開発事業に、市は建設費だけで約80億円の負担と推計しているが、建設費に加えて用地買収費も必要である。デフレの時期に、これだけの巨額の財政

支出を伴う事業は抜本的に見直すべきではないか。

市長 立ち止まっているわけにはいかない。公債費支出が平成18年度をピークに減少傾向にある点も、財政余力の根拠にしている。

議員 財政余力とは、入りがあった、その中で何割大丈夫だという理屈ではないだろうか。減収になっても事業を続けるのかと聞いている。どこかで立ち止まる基準は設けておくべきだ。

企画部長 収入は現状が底であるという認識でいる。

議員 その底が抜けた後の対応は考えているのか。

企画部長 想定範囲内と考えている。

## 「コミュニティバス等を中心により便利な交通網の整備を



政新クラブ 土屋 健一 議員

議員 高齢社会を迎えて、コミュニティバスは市民の移動手段としてさらなる利便性の向上が必要だ。利用料金のワンコイン化(100円)を早急に実現してほしい。

市長 路線バスの営業への影響など、実現が難しい事情がある。今後、路線バスとの乗り継ぎ制度の拡充を図り、新たなバス交通の連携システムを創出したい。

議員 東西方向のバス交通の整備が必要だ。①山中通

の整備が必要だ。①山中通

の整備が必要だ。①山中通

の整備が必要だ。①山中通

## 市民に必要なサービスを 福祉サービスの拡充を



日本共産党 大城 美幸 議員

議員 不妊症治療に伴う経済的、精神的負担は想像以上だ。23区の約半数の自治体が都の特定不妊治療費助成制度とは別に独自の助成制度を設けている。本市も独自の助成制度が必要だ。

健康福祉部長 今後の検討課題としていきたい。

議員 市総合保健センターにおいて、不妊症の相談窓口の設置や治療方法等の情報提供を行ってはどうか。

市長 相談者の精神状態、

(6面へ続く)